

令和元年6月吉日

各 位

公益財団法人 古川知足会

展覧会 取材のお願い

謹啓 平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。

2019年夏に、古川美術館・分館 爲三郎記念館の両館において、特別展「第二楽章～書だ！石川九楊展」を開催いたします。

書と文学との関わりを追求し、書に時代を反映しようと追い求めてきた石川九楊。《読める書》《読めない書》といった前提や、私たちが抱く書の既成概念を打ち砕き、音楽のようでもあり、絵画のような書の世界を発表し続けています。本展は現代随一の書家であり、評論家でもある石川九楊の東海地方初となる展覧会で、作品1000点、著作100点の記念として100点の作品が展示された「書だ！石川九楊展」（2017年上野の森美術館で開催）の第二弾となります。第二弾の目玉として、書家としても初の試みとなる会期中の公開制作を行います。できあがった作品（襖）は、第二会場となる日本家屋邸内に展示する他、千字を千個の盃にしたための盃千字文も展覧できます。

書家・石川九楊の、更なる歩みと今なお追い求める書の表現の宇宙をお楽しみいただける企画です。是非とも貴媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

謹白

記

企画名 古川美術館 分館 爲三郎記念館特別展「第二楽章～書だ！石川九楊」展

会 期 2019年8月3日（土）～10月6日（日）56日間

一部展示替 「歎異抄No.18」 8月3日（土）～9月8日（日）

「徒然草No.16」 9月10日（火）～10月6日（日）

同期間で分館 爲三郎記念館の作品も入替えいたします。

開館時間 10時～17時（最終受付16時半）

休館日 月曜日 但し8月12日、9月16日、23日は開館、翌火曜日が休館

会 場 古川美術館（第一会場）、分館 爲三郎記念館（第二会場）
（愛知県名古屋市千種区池下町2-50 Tel052-763-1991）

主 催 公益財団法人 古川知足会

後 援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社、日本経済新聞社、
CBCテレビ、スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社、
あいちトリエンナーレ2019連携事業、beyond 2020

協 力 ギャラリー白い点、名古屋画廊、幸兵衛窯、市之倉さかづき美術館

展覧会の見どころ

【展示構成】 古川美術館に初期～最新作まで 約 40 点（一部前後期入替）
為三郎記念館に軸、屏風、茶道具、文具等で約 50 点（予定）
期間中の公開制作の襖も展示

古川美術館

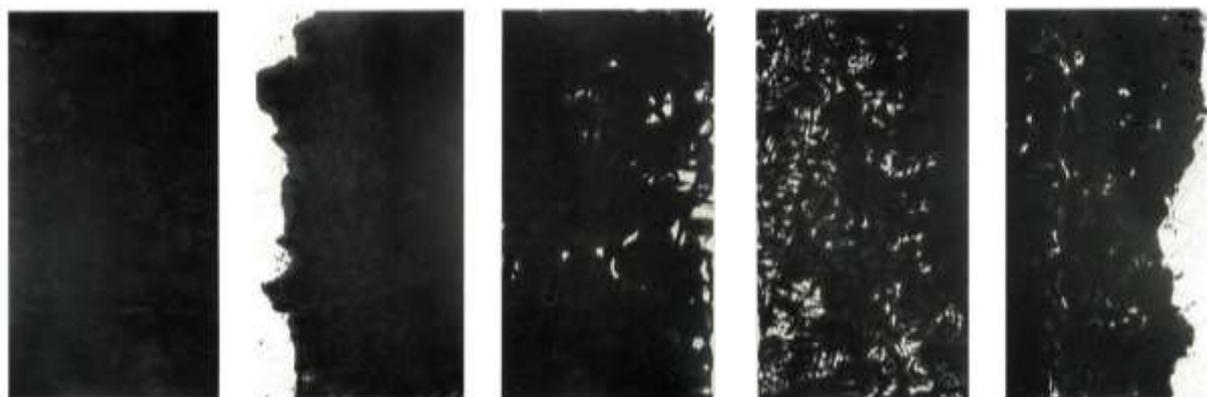
◆第1展示室・特別展示室

石川九楊初期の作品から、代表作「歎異抄 No.18」まで。

書の本質にある光と影、正と反、陰と陽の世界。また墨の滲みを究極にまで突き詰めた作品など、無声の音楽ともいえる石川九楊の書の世界を展覧します。

◆「李賀詩 感風五音（五連作）」 1992年 360×192 cm

高さ 3.5m に及ぶ大作。微妙な濃淡を用い、微かに文字を書いた痕跡が見える。
極端なニジミを用いた作品。



◆「歎異抄 NO.18」 1992年 97×52 cm (8月3日～9月8日展示)

石川九楊がそれまで蓄積したありとあらゆる筆触を用いて試みた作品。針で差し込むような筆触、極小から極大、垂直と水平、さまざまな筆触を用いて「歎異抄」全文が 92 cm×57 cmの紙面に書きこまれた驚異の書。



左 石川九楊「歎異抄 NO.18」全図 右 部分拡大図



◆第2展示室

石川九楊が、辿りついた書の世界。雁皮紙に書かれた近作までを一堂に展示。

◆「敗戦古稀 其二」 2016年 (94×60 cm) 左画像

《昭和二十年、敗戦の年に私は生まれた…》

石川九楊の自作詩。

爲三郎記念館

昭和9年に建てられた数寄屋建築の空間に、石川九楊最初期の軸作品から、盃一つに一文字をしたためた圧巻の「盃千字文」、岐阜の名窯・幸兵衛窯の七代加藤幸兵衛、八代加藤亮太郎と合作した陶芸作品まで、書の多様な表現世界を展覧。



左) 爲三郎記念館 外観



右) 石川九楊の公開制作の襖が展示予定の室内

会期中の目玉イベント

書家、初の試みとなる会期中の公開制作 ^{ひっしょく} ^{ドラマ} 「筆蝕の劇」

日時： 8月3日(土)、8月9日(金)、8月29日(木) 13時～15時 要予約

各日 定員30名

公開制作の場所：古川美術館3階会議室

石川九楊の書と接する上で重要なキーワード《筆蝕(ひっしょく)》。

筆蝕とは「書きぶり」のことであり、作者が手にした筆の先端と紙との関係に生じる、加える力と反発する力との関係から生み出される劇(ドラマ)のことである。書の美とは筆蝕の美であり、定着された書字の姿形だけを楽しむものではない。書を鑑賞するとは、書かれている文字が何かを知るのではなく、書家が表現しようとしている言葉、世界が、どのように生み出されていったのか、筆蝕の劇を知ることである。公開制作は、筆蝕の劇を直に体験できる貴重な機会である。

その他のイベント

①来館サイン日「九楊日」

「九」のつく日と展覧会最終日に書家・石川九楊が来館し、サイン会を実施
日時：9月29日(日)、10月6日(日) 13:30～16:00(サイン会最終受付)
場所：古川美術館 展示室前
対象：販売中の書籍をお買上の方

②茶会「書・陶・茶」 要予約

石川九楊と七代加藤幸兵衛合作のラスター茶盃、八代加藤亮太郎と合作した陶芸作品が登場。
また石川九楊が公開制作した襖4枚が茶会開催の部屋に展示されます。

日時：9月22日(日) 10時～16時 全7席
協力：幸兵衛窯 八代 加藤亮太郎
場所：爲三郎記念館(古川美術館の分館)

③講演会「書程面白いものはない」 要予約

書とは何かを追求し、書と文学の関わりと構造を解明した石川九楊が、誰も辿りつけなかった書の真理と表現を語ります。

日時：9月19日(木) 13時半～
場所：ルブラ王山(名古屋市千種区覚王山通8-18) ※古川美術館より徒歩5分、

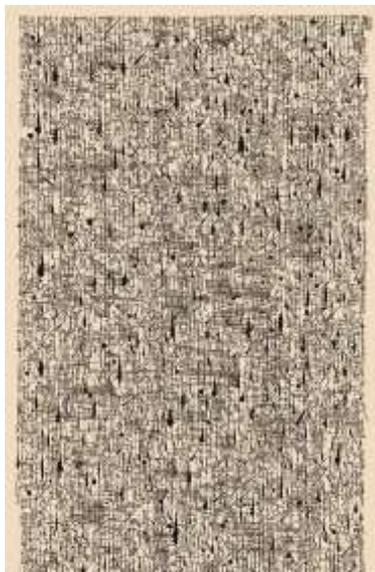
④連携展覧会 「石川九楊展～書は筆蝕の美である～」

名古屋画廊にて石川九楊展を同時開催

日時：2019年8月3日～8月31日(但し8月4日、25日、10日～18日は休廊)
場所：名古屋画廊(愛知県名古屋市中区栄一丁12番10号 TEL.052-211-1982)

広報用画像のご提供について

下記の作品データをご希望の場合、ご連絡ください。メールにて画像データをお送りします。



左 石川九楊「歎異抄 NO.18」 1992年



右 石川九楊「敗戦古稀 其二」 2016年

いずれもギャラリー白い点所蔵

【連絡先】

公益財団法人 古川知足会

学芸課 早川祥子

名古屋市千種区池下町2-50

TEL052-763-1991

Fax052-763-1994

メールアドレス

s_asano@furukawa-museum.or.jp

◆石川九楊 プロフィール

ISHIKAWA Kyuyoh

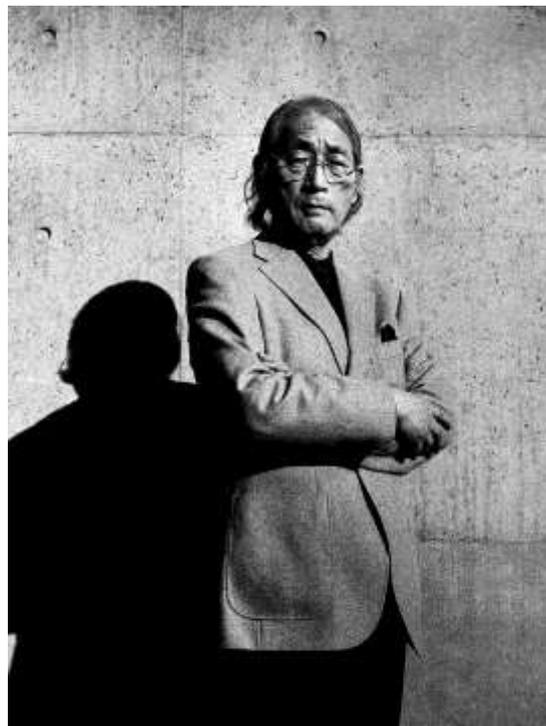
書家、批評家

1945年 福井県生まれ

京都大学法学部卒業

石川九楊研究室 代表

京都精華大学客員教員（前京都精華大学教授・文字文明研究所長）



石川九楊 近影 撮影：筒口直弘

【主たる著書】

1990年『書の終焉—近代書史論』（同朋舎出版）

サントリー学芸賞受賞

2002年『日本書史』（名古屋大学出版会） 毎日出版文化賞

2009年『近代書史』（名古屋大学出版会） 大佛次郎賞受賞

2017年『石川九楊著作集』（全12巻）

【主たる展覧会】

2005年「石川九楊の世界展」（東京日本橋三越、京都大丸百貨店）

2011年「石川九楊展」（伊丹市工芸センター、伊丹市立美術館）

2017年「書だ！石川九楊展」（上野の森美術館）主催：石川九楊展実行委員会、日本経済新聞社

招待展

1994年「平安建都一二〇〇年記念美術選抜展」（京都市美術館）

1994年「現代における文字世界展」（O美術館）

1996年「現代美術と文字店」（北海道立函館美術館9）

1997年「TAEGU ASIA ARTS EXHIBITION」（韓国大邱市）

1999年「東アジア文字芸術の現在展」（韓国ソウル市）

【代表作】

「歎異抄」、「源氏物語」、「9.11シリーズ」、

「3.11シリーズ」、「敗戦古稀」

自作詩、戦後詩から古典文学、現代詩、そして再び自作詩文へという制作軌跡を通して、時代を書にうつし、時代をつかむ。

書の表現の可能性を追求し、現代音楽、現代絵画に通じるような作品を発表している。